開館 20 周年記念特別号

前橋文学館報

No.39 2013.12



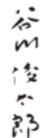
新連載)萩原朔太郎賞受賞者より

第一回 谷川俊太郎氏(第一回受賞者)

開館20周年を記念して、今号より新連載を始めました。

川のほとりに

前橋文学館開館二○周年に寄せて



一語は辞書から借りたとしても時に所在なげに

詩の古里は詩人の故郷と違って

魂の深淵にひそんでいたのだ

行はすでに心々の薄明の奥の

星々のかなたに毛根をひろげる土地に根差しながら

私たちがいるだけ 美しい日本語に眼と耳を新しくするただ真実への迂路をたどる 無冠の称号のもとに集うとこ

詩と散文がせめぎ合いながら

言葉を超えるリアルを探った戦跡

この館には王も妃もいない

無冠の称号のもとに集うところ世俗と戦い続けた者たちが

谷川 俊太郎 (たにかわ しゅんたろう)

1931年東京生まれ。1952年に詩集『二十億 光年の孤独』刊行。その後、現在まで数多く の詩集、エッセイ集、絵本、童話、翻訳書 がある。 またほかに脚本、作詞、写真集、 CD、カセットブック、ビデオなども手がけ る。

主な詩集に『六十二のソネット』(1953年) 『日々の地図』(1982年)(読売文学賞) 『コカコーラ・レッスン』(1980年)、翻 訳に『マザーグースのうた』(日本翻訳文化 賞)『スヌーピー・ブックス』等がある。 1993年に『世間知ラズ』で第1回萩原朔太郎 賞を受賞。